



ITI 国際演劇協会 「海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズ

Vol. 1

原サチコの

ぶつちやけどドイツ演劇話

公立劇場専属俳優としてしぶとく生き抜く

ドイツで活躍する俳優 原サチコのトークとビデオ上映（日本語）
構成・話し手・原サチコ
聞き手・伊達なつめ（演劇ジャーナリスト）

日時：2013年7月15日（月・祝）

会場：東京芸術劇場5F シンフォニースペース（〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1）

http://www.green.dti.ne.jp/iti/ititop_j.html（国際演劇協会日本センター）



ITI国際演劇協会 「海外で活躍するプロフェッショナル」 シリーズ Vol.1

『原サチコのぶっちゃけドイツ演劇話～公立劇場専属俳優としてしぶとく生き抜く～』

ドイツで活躍する俳優 原サチコのトークとビデオ上映(日本語)

構成・話し手:原サチコ

聞き手:伊達なつめ(演劇ジャーナリスト)

日時:2013年7月15日(月・祝)

- 18:30 ▪ 受付開始
- 19:00～20:30 ▪ 講演
- 20:30～21:00 ▪ 懇親会(会場内にて)

会場:東京芸術劇場5Fシンフォニースペース(〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1)

*JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結しています。

料金:1,000円(全席自由席、受付にて当日精算のみ取扱)

*ITI会員500円、予約時に会員である旨を明記いただき、当日会員証をご提示ください

チケット予約 国際演劇協会:iti.lecture@gmail.com

- 件名を「レクチャー20130715原サチコ申し込み」とし、
- 本文に氏名、枚数、日中に連絡とれる連絡先(電話番号)と、
- iti.lecture@gmail.comから受信可能なメールアドレスを入れて送信してください。

お問合せ:TEL 03-3478-2189 FAX 03-3478-7218 MAIL:iti.lecture@gmail.com

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 国立能楽堂内 国際演劇協会

主催:国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター(ITI http://www.green.dti.ne.jp/iti/ititop_j.html)

共催:東京芸術劇場(公益財団法人 東京都歴史文化財団)

協力:東京ドイツ文化センター

制作協力:有限会社マッシュ

『ITI 海外で活躍するプロフェッショナル』シリーズについて

- 21世紀も10年が経過し、演劇・舞踊・オペラなどのそれぞれの分野で海外留学の後海外にそのまま留まったり、
- 日本での活動に飽き足らず活躍の場を海外に求めたりして、海外の劇団や劇場でプロフェッショナルとして活躍する日本人が増えてきている。
- 海外の舞台芸術のプロフェッショナルが何を考え、何に期待し、彼らが1日をどのように過ごしているのか。
- 海外の劇場、劇団、ダンスカンパニーがどういう風に運営されているのか。
- 演出家、役者、振付家、ダンサーとして実際にその世界で活動しているプロの彼らの生な声を聞いてみたい、
- という意図で始めるのがこのシリーズです。
- ITIは海外で活躍する日本人のプロフェッショナルが帰国する機会を活用して「ITI 海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズを企画します。

『原サチコのぶっちゃけドイツ演劇話～公立劇場専属俳優としてしぶとく生き抜く』について

- 2001年に渡独し、以来12年ドイツ語圏で、役者として生きる人生。
- 異才、鬼才と呼ばれる演出家たちに見いだされ、東洋人などいないドイツ語圏の公立劇場に専属俳優として所属し、
- 自分で居場所を見つけ出してきた、日本人俳優原サチコ。
- 偶然ではなく行動と努力で自らつかんだポジション。その激動のドイツ俳優人生について、
- 出演作品の映像をご紹介します。原サチコ特有のユーモアを交えて、語ります。

- 終演後は、会場内でお飲み物と軽なおつまみをご用意して、原サチコを交えた懇親会も行います。
- 直接本人に聞いてみたいことがありましたら、この時にどうぞ。
- 堅苦しいイベントではございません。どうかお気軽にご来場賜りますようお願い申し上げます。

原サチコ プロフィール

- 1964年神奈川県生まれ。上智大学外国語学部ドイツ語学科卒。
- 1984年より演劇舎蠅螂で演劇をはじめ。後に劇団「ロマンチカ」で活動。
- 1999年渡辺和子演出の「羅生門」(新国立劇場公演)出演がきっかけで、ベルリンでの渡辺和子演出の「NARAYAMA」にも出演することになる。
- その時に憧れていたクリストフ・シュリンゲンジーフと出会うために、あらゆる人に「会わせてくれ」と懇願し、大願成就。
- シュリンゲンジーフのドイツ巡回公演に出演するチャンスを手に入れる。
- 2001年ベルリンへ移住。シュリンゲンジーフのベルリン・フォルクスビューネ劇場作品に出演。
- その後、ニコラス・シュテーマン演出の「三文オペラ」ポリ役をきっかけに、さまざまな演出家の作品に出演。
- 2004年、東洋人として初めてウィーン・国立ブルク劇場の専属俳優となり、
- シュリンゲンジーフ、シュテーマン、ルネ・ポレシュ、セバスチャン・ハートマン、
- ラース・オレ・ヴァルブルク、フリーデリケ・ヘラーなどの作品に出演し、5年間を過ごす。
- 2009年、ドイツ・ハノーファー州立劇場に移籍。2011年8月より、ハノーファー州立劇場とケルン市立劇場の2劇場の専属俳優となる。
- 2011年福島第一原発事故をテーマにしたノーベル賞作家エルフリーデ・イエリネク作「KEIN LICHT」(邦題:「光のない。」)に出演し、
- 大きな反響を呼ぶ。
- 2012年ケルン市立劇場に完全移籍し1シーズンを過ごし、
- 今年2013年8月から、ドイツ演劇人の憧れの劇場であるハンブルク・ドイツ劇場の専属となる。